

3年ぶりの開催 東海・北陸brook相談事業講習会



講演する原玲子中央相談所相談員↑

11月13、14日、三重県鳥羽市の鳥羽グランドホテルにて「日本被団協原爆被爆者中央相談所東海・北陸brook相談事業講習会」が開かれました。コロナ禍の影響で2年間開催を見送っていたため3年ぶりの開催となり、被爆者と被爆2世3世、支援者あわせて54名が参加しました。

13日の開会セレモニーでは、「有意義な講習会に」「待ちに待つた講習会とが嬉しい」など開催を喜び合いました。また、来賓として三重県医療保健部、鳥羽市長が挨拶されました。

講習会では、いくわ診療所、加藤文人さんによ

り、生身の人には会えるこ

とが嬉しい」という

中央相談所の原玲子さんは「相談事業からみた課題」と題し、医療現場の現状や介護保険サービスの活用のしかたなど、資料に基づいて話されました。

懇親会ではお酒や料理を楽しみながら、各県ごとに歌や踊りなど出し物を披露し、久しぶりの楽しい交流会となりました。

2日目は、木戸李市被団協事務局長から、NPT再検討会議や核兵器禁止条約締約国会議の報告と被団協運動の今後について提起されました。

その後、各県から活動報告が行われ、元気に活動されている各県報告がされる中、福井県からは急逝された役員の後任が報告され、現実の課題があることもあつて今年中に解散することなどが認められました。

また、2世部会からは前夜に行なわれた「2世3世交流会」の報告がされ、「新しい運動の担い手としてがんばる」と述べられました。

情勢を学び、活動の力に

緑区原水協定期総会

原水協の学習会と定期総会を15名の参加で行いました。



↑厚労省への署名提出



署名行動に入ったこと、引き続き地域への署名訪問行動の取り組むことを報告しました。また、平和進歩や原水協への参加団体を増やす一步を踏み出すこと、財政面では賛成すること、財政面では賛成することと「新体制をつくること、「新指針」で要件にした11疾病を撤回することと「新

要請では、「黒い雨」被害者の推定該当者1万3000人のうち、申請は約3400人(9月時点)、手帳交付は約1800人となっており、説明会を開催するとともに、相談

11月20日、東北原水協が北区尾上団地で「日本政府に求める署名」を集めました。事前にポストインし、扉に張り付けておいてもらつた署名を回収するとともに、一戸一戸尋ねて署名をお願いしてまわりました。訪

日時…1月8日(日)
場所…民主会館2階
講師…石川康宏さん
(日本平和委員会代表
理事・神戸女学院大学
学名譽教授)

反核・平和
新春のつどい



東北原水協・団地大作戦!!

昼に電話をいただき、ねた際に返事をされたそ
うですが、聞こえなかつたのか扉を開けたら誰もいなかつたとのことです。
昼に電話をいただき、取りにうかがうとお話し
したのですが、届けに來られました。手押し車を使われるお身体が不自由な方だと思います。本当に嬉しいことです。
(東北原水協・長尾忠昭)

じたことは、実際に集まって互いの顔を見ながら語り合うことは、とても大切のことだということです。来年は岐阜県での開催です。岐阜県で集うことを確

認して、閉会しました。
(支援ネット・武藤昌代)

広島・長崎の被害者全員救済を 「黒い雨」厚労省要請

3年ぶりの講習会で感じたことは、実際に集まって元気に活動し、1年後で耳を傾けました。「7割の国民が核兵器禁止条例に賛成しているのに、声があることを事前に伝えて、『7年後には岐阜県で集うことを確

かに予定されています。参加者一同それぞれの地長の「核兵器禁止・廃絶へ・今後の展望」に真剣に耳を傾けました。「7割の国民が核兵器禁止条例に賛成しているのに、声があることを事前に伝えて、『7年後には岐阜県で集うことを確

かに予定されています。参加者一同それぞれの地長の「核兵器禁止・廃絶へ・今後の展望」に真剣に耳を傾けました。「7割の国民が核兵器禁止条例に賛成しているのに、声があることを事前に伝えて、『7年後には岐阜県で集うことを確

かに予定されています。小学校の修学旅行は長崎平和公園でした。それから約60年、原水爆禁制運動には、いつも心を寄せてきました。核兵器の歴史に学び、核兵器廃絶に取り組んでほしいです。世界中の人々と手を取り合って核兵器のない地球を実現させましょう」の感想が寄せられました。(緑区原水協・山本由美子)